



夢、再び

還暦野球チーム結成

高梁ベアーズ



濃紺に金色で「Takahashi」の文字が入った新調のユニホーム。照れながら袖を通す「名選手」たち。市内初の還暦野球チームが結成され、3月31日に神原スポーツ公園野球場で初練習を行いました。

8月に市内で開催される第6回中四国還暦軟式野球大会に参加しようと、元中学校長の松前俊洋さん(71)と、落合町阿部Ⅱがかつての野球仲間と呼びかけて新チームを結成しました。集まったのは、学生や社会人時代に野球に打ち込んだ実力者で、60歳から72歳までの26人。「話しを持ちかけると、最初はためらいつつも、皆さん二つ返事で承諾してくれました。『野球小僧』の血が騒いだのでしよう。高齢者の健康づくりになれば」

と監督になった松前さん。

チーム名は、集まったメンバーの体型・容姿から「高梁ベアーズ(熊)」と名づけ、岡山県還暦野球連盟にも加盟しました。

初練習のこの日は19人が参加。軽くキャッチボールから始めトスバツティングなどを行いました。さすがに昔とつた杵柄で、すぐにボールに馴染み往年の姿を彷彿させていました。

妻や孫が「頑張つて」と送り出してくれたという堤亘貞さん(66)「鍛冶町Ⅱは「30年ぶりなので、まずは勘を取り戻して、けがなくチームメイトに迷惑を掛けないようにしなければ」と話し、また末尾賢次さん(65)「落合町阿部Ⅱは「まさかみんなと、またやれるとは」。一緒に10代に戻ったよう。とにかくこれからは楽しんでみです」と笑顔で話します。

キャプテンの平松寿郎さん(70)「高倉町大瀬八長Ⅱは「健康づくりをかねて練習し、楽しくやりたい。でも、勝ちにはこだわっていききたいですね」と、まずは5月に井原市で行われる「実年野球大会」での一勝を目指します。

高齢者の底力に期待です。」がんばれ！ベアーズ」



第17回 吉備国際大学公開講座開催!

テーマ「備中おもしろ文化講座」

開催日程

日	時間	講師	演題
6/9(土)	13:30~15:00	吉備国際大学 今西和男	スポーツとしてのサッカー、文化としてのサッカー
	15:10~16:40	吉備国際大学 加藤健次	<比喩>という文化装置~サルは踊り、ネコは舞う
6/16(土)	13:30~15:00	吉備国際大学 湧田英明	流行歌は世につれない
	15:10~16:40	吉備国際大学 安田震一	“ことば”のあれこれ：アジアの英語
6/23(土)	13:30~15:00	吉備国際大学 岡崎郁子	台湾の日本語人とその作品
	15:10~16:40	吉備国際大学 馬場秀雄	座る文化と文化財
6/30(土)	13:30~15:00	元東京大学 文学部長 西本晃雄	落語『死に神』の東西文化交流
	15:10~16:40	吉備国際大学 菊池城司	日本の学校・世界の学校

会場：吉備国際大学10号館1階10110教室（奥万田町・国際交流会館横）

※6月23日のみ別会場：高梁総合福祉センター（向町）

※受講料無料。申し込みは5月7日(月)～5月31日(木)に事務局まで。(当日受付で受講可能)

6月23日を除き備中高梁駅から送迎バス(13:10発)を運行します。1回のみのお受講も可能ですのでお気軽にご参加ください。

■問い合わせ・申し込み 吉備国際大学公開講座事務局 (TEL)29454

編集後記

周囲の山々のあちらこちらでは山桜が咲き誇り、まるで存在感をアピールしているかのようです。これから日いちと木々の若葉も芽吹き、高梁の自然の美しい季節となります。

さて、今月号では19年度当初予算を紹介するとともに、別冊では今年度から変わる公共料金・補助金の改正や市の機構・配置図等を掲載しました。行財政改革に伴う取り組みが行われることとなります。

国では4月2日、地方分権改革推進委員会が発足し、国・地方財政の三位一体改革に続く分権の第2期改革がスタートしました。分権の流れはますます加速し、地方ができることは地方

が主役でやっていくこととなります。それぞれが自治体は行財政改革を進めるとともに個性を発揮し、自己主張していかなければなりません。

公開中の映画「バッテリー」など、これまでも多くの映画のロケ地となってきた高梁。独自の歴史や文化、自然など誇れるものがたくさんあり、地域でのまちづくりへの取り組みも盛んです。

市は定住促進係を設置し、団塊の世代などを対象に高梁に住んでもらうよう取り組むこととしていきます。高梁の素晴らしさを知ってもらうためには、まず、住んでいる私たち自身が郷土の素晴らしさを再認識することなのかも知れません。(NK)

まちの伝言板

清掃とマス釣り大会 5月4日(金)



清流を守る会
会長 楠木 寿さん(54)

中井町西方の佐伏川で開かれる「清掃とマス釣り大会」。

どなたでも参加でき、参加費は大人500円、高校生以下無料。小学校低学年までは必ず保護者同伴で。釣りさお、えさ、弁当、雨具、軍手などは各自で持参します。

参加希望者は当日午前9時に同所の方谷の里ふれあいセンターに集合し、川沿いのごみを拾いながら釣り場へ移動します。

網で仕切られた川にはマスとアマゴ計3500匹が放流

され、いよいよ釣り大会の開始。つかみ捕りの時間もあります。

このほか、会場では地域特産のテンペコロッケなどが販売され、清掃参加の子どもたちには抽選で商品が当たるお楽しみ企画もあります。

この催しは、次代を担う子どもたちに豊かな自然を残そうと活動する「清流を守る会」が主催し、今年で11回目。清掃だけの行事では人は集まらないため、何かインパクトのあることをしようと思ったもの。

「ゴールデンウィークの一日、楽しい時間を過ごしてもらうとともに、川を汚してはいけないということを感じてもらえれば」と同会会長の楠木さん。

問い合わせは楠木さんまで。(TEL)2055)

※「清流を守る会」は平成18年度赤木五郎賞を受賞。(10～11ページに関連記事)